

< CVP 分析 >

CVP 分析は日商簿記 1 級の内容が基礎になります。

DVD には、日商 1 級の講座の内容が CVP 分析①と CVP 分析②として収録されています。まずは、そちらを確認して下さい。動画の最後の 15 分は全経簿記の過去問が必要になりますので、聞いていただく必要はありません。

上記内容視聴時のレジュメは、「日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座工原 No. 14 【CVP 分析】」です。

では続いて、論点整理ゼミ #2 で過去問での問われ方を確認しましょう。

(平成 21 年)

第 3 問

< 設問 1 >

ここは単独（他の設問に関係なく）で得点できる箇所です。確実に採りたいところです。

売上高	5,611
変動費	2,606
貢献利益	3,005
固定費	2,734 (931+1,598+208-3)
経常利益	271

$$X - 2,606 / 5,611 \times X - 2,734 = 0 \text{ を展開して求めるだけです}$$

$$X \doteq 5,105$$

< 設問 2 >

本社売却した場合の BEP

売上高	5,611
変動費	2,606
貢献利益	3,005
固定費	2,395 (2,734-195-144) 固定費純削減と支払利息の軽減
経常利益	610

$$X \doteq 4,741$$

レバレッジに関しては、数値計算し、業績への影響（通常は利益面への影響）を記述すれば OK です。もしも安全面を問われれば、レバレッジは安全余裕率の逆数であることを思い出して、「安全性が高まった」等と記述すれば満点でしょう。

$$\text{売却前 } 3,005 / 271 \doteq 11.09$$

$$\text{売却後 } 3,005 / 610 \doteq 4.93$$

余談ですが、この時の試験は第 2 問は捨て問で、第 3 問のできで合否がわかれるという状態でしょう。第 3 問に結果的に 40 点くらいの傾斜があったと考えるべきです。このような問題 1 の取りこぼしは致命的であると考えて下さい。

(平成 22 年)
設問 1 の場合

	実績	①案	②案
売上高	2,823	2,258.4	3,952.2
変動費	1,129	1,129	2,258
固定費	1,640	1,640	1,640
損益分岐点売上高		3,279.42	3,825.76

BEP 売上高 = 固定費 ÷ 貢献利益率 という公式が頭に入っていれば
こんな電卓操作で簡単に出せます

$$\textcircled{1} 1129 \div 2258.4 = -1 = M+ \quad 1640 \div \boxed{RM} = 3,279.419 \dots$$

$$\textcircled{2} 2258 \div 3952.2 = -1 = M+ \quad 1640 \div RM = 3,825.763 \dots$$

設問 2 の記述は比較的簡単でしょう。総費用線は試験当日では対応しにくいでしょう。
でも、たぶん計算結果と記述で 20 点は確保できるはずです

(その他の論点)

連立方程式で固定費・変動費を求める問題

D社の過去2年のP/L（簡易）から、変動費率と固定費を求めよ。なお、この2年間の変動費率と固定費は一定とする。

	20X4年	20X5年
売上高	100,000	200,000
売上原価	20,000	35,000
売上総利益	80,000	165,000
販管費	70,000	95,000
営業利益	10,000	70,000

変動費率を x 、固定費を y と置く

$$200,000 - 200,000 \times x - y = 70,000 \dots \textcircled{1}$$

$$100,000 - 100,000 \times x - y = 10,000 \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1} - \textcircled{2}$$

$$100,000 - 100,000x = 60,000$$

$$x = 0.4$$

$$y = 50,000$$

こういう問題を試したら、その後に自身で下記のように展開してみてください
必ず実力が付きます。

この場合の損益分岐点は？

$$50,000 \div 0.6 \doteq 83,333 \text{ 円}$$

$$20X4 \text{ 年の営業レバレッジは } 60,000 / 10,000 = 6$$

$$20X5 \text{ 年の営業レバレッジは } 120,000 / 70,000 \doteq 1.71$$

20X5年は同じ固定費で売上高を伸ばしたので、安全性が高まったと考えられます（あくまでも単年度分析）

$$\text{営業利益の伸張率} = \text{売上の伸張率} \times \text{レバレッジの伸張率 } 2 \times 1.71 \doteq 7$$

弥生カレッジCMC

<http://www.kaikei-soft.net>